

クロアチア情勢

主な出来事

2014年11月

内政

- 3日、アンテ・スタルチェビッチ権利党(HSPAS)のルジャ・トマシッチ党首(現欧州議会議員)が、党首辞任及び同党からの離党を発表。
- 8日、HSPAS幹部会は、トマシッチ党首の辞任を受け、イバン・テペス副党首を党首代行に指名。
- 11日、大統領選挙への立候補を表明しているグラバル＝キタロビッチ候補(NATO事務総長補(現在休職中)、元外相)が、ザグレブにて選挙プログラム(「よりよいクロアチアのために」)の正式発表集会を開催。
- 13日、レコ議会議長は、本年10月から退役軍人省の前で座り込みの抗議活動を実施する主導者との会合を実施。重度障害を負った「祖国防衛戦争」退役軍人協会は、来年(2015年)1月1日に施行される年金保険法適用の延期、「祖国防衛戦争」退役軍人の権利を憲法に記載することを要請。
- 15日、クロアチアの持続的成長党(ORaH)が、次期大統領選挙におけるヨシポビッチ現大統領の支持を表明。
- 17日、汚職・組織犯罪対策本部(USKOK)は、カルメタ・ザダル市長(HDZ所属、元海事・運輸・インフラ相)を、2005～2010年の大臣在任中に、クロアチア高速道路公社(HAC)から約3000万クーナ(約5億4千万円)の資金流用を行った疑いで捜査する旨発表。
- 18日、ブコバルにおいて、ブコバル市紛争犠牲者追悼式典を開催。ヨシポビッチ大統領、ミラノビッチ首相ら政府要人が出席。
- 19日、ザグレブ県裁判所は、本年10月に逮捕されたバンディッチ・ザグレブ市長を、保釈金(1500万クーナ)の納付と保釈後の市長職を行わないことを条件として保釈を認める決定を下す。
- 20日、クロアチア政府は、第6回大統領選挙の日程を本年12月28日とすることを閣議決定。第1回投票で第1位候補者が50%以上の支持率を得られなかった場合、上位2名をもって2015年1月11日に決選投票を実施。
- 20日、トマシッチ前HSPAS党首(現欧州議会議員)および元HSPAS党員は、新党「クロアチア保守党」を結成。
- 26日、クロアチア議会は、旧ユーゴ国際刑事裁判所(ICTY)によるボイスラブ・シェシエリ被告(セルビア急進党党首)の一時釈放決定を非難する宣言を全会一致で採択。

●30日、大統領選挙への立候補を表明しているクウンジッチ「クロアチアの夜明け」党首は、ザグレブにて選挙プログラム(「新しいクロアチア」)の正式発表集会を開催。

外交

- 5日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、独・英外相の招待により第6回南東欧外相会合出席のためベルリンを訪問。独、英外相の他、NATO、米国の代表らも出席。右会合において、独・英外相によるボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)のEU加盟促進に向けたイニシアチブが発表された。
- 6日、レコ議会議長は、ザグレブにおいてハマチェク・チェコ代議院議長と会談。両国間における議会協力の強化を目指すことを確認。
- 8日、レコ議会議長は、ベルリンの壁崩壊25周年式典に出席のためベルリンを訪問。
- 9日、ORaHが、欧州議会における欧州緑の党(EGP)のメンバーとして承認。
- 10-14日、ロレンツィン観光相が、韓国、日本、中国を訪問。日本では、山口由美観光庁次長、田川博己日本旅行業協会会長(JTB会長)らと意見交換。
- 11日、ミラノビッチ首相は、ボフスラフ・ソボトカ・チェコ首相の招待でプラハを公式訪問。
- 13日、ヨシポビッチ大統領は、本年10月の国政選挙でBH大統領評議会に選出されたチョービッチBH大統領評議会クロアチア系メンバーと、クロアチア・BH両国間関係やBHクロアチア系住民の地位につき意見交換。
- 13日、コトロマノビッチ国防相は、クロアチア南部スプリットにおいて開催された「NATO工業フォーラム」に出席。
- 13日、クロアチア政府は、2015年のBH、アフガニスタン、ソマリア、コソボで展開する平和維持活動へのクロアチア軍要員の派遣を閣議決定。
- 17日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、EU外務理事会出席のためブリュッセルを訪問。また、18日、EU各国の国防相らも同理事会にてEUの共通安保健衛政策(CSDP)の強化、EU各国の国際社会の安全確保への責任等につき協議し、コトロマノビッチ国防相が出席。
- 19日、ヨシポビッチ大統領およびミラノビッチ首相は、ザグレブで開催されたクロアチアとバチカン市国(ローマ教皇庁)との外交樹立20周年記念式典(記念本出版式)に出席。
- 19-20日、レコ議会議長は、企業関係者らとともにカタールを公式訪問。
- 21日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、ポルトガルを公式訪問。マシェッテ・ポルトガル外相およびポルタス同副首相と会談し、二国間協力協定に署名。
- 22-23日、ドゥブロブニク港に、クロアチアとイタリアとの友好関係を示す目的で伊海軍の航空母艦カブール(Cavour)が寄港。
- 24日、ミラノビッチ首相は、「中欧イニシアティブ・サミット(CEI)」出席のため、ウィーンを訪問。CEIは、加盟国間の協力を通じて欧州統合を支援することを目的として、1989年に結成された地域の政府間フォーラム。

●28日、ミラノビッチ首相は、来12月16日にベオグラードで開催予定の「中欧・中国首脳会議(16+1)」への欠席を表明。同会議へは、首相に代わり、ハイダシュ＝ドンチッチ海事・運輸・インフラ相がクロアチア代表として出席予定。

経済

●3日、ブルドリヤク経済大臣は、同日応札締め切りとなったアドリア海の石油・ガスの探査・開発プロジェクトに対して6件の応札があったことを明らかにした。クロアチア政府は今年末までに右より最良の応札を選び、2015年第一四半期末までに契約を取り交わす予定。

●3日、クロアチア投資・競争庁(AIK)は、韓国ソウルにて、同庁主催のクロアチア投資フォーラムを開催。

●4日、欧州委員会は、クロアチアの①経済成長率について2014年は-0.7%、2015年は0.2%、2016年は1.1%と予測。経済成長に対する下方リスクとしては、財政健全化に向けた国内政策の不確実性、構造改革の遅れ等を指摘。②財政収支赤字対GDP比について2014年は5.6%(2013年は同5.2%)、2015年は同5.5%、2016年も同レベルで推移と予測。③政府債務残高対GDP比について2014年(2013年末は同75.7%)は81.7%、2015年は84.9%、2016年は89.0%と予測。

●11日、政府は「2015年－17年経済・財政政策指針」を公表。

●12日、国際通貨基金(IMF)はクロアチアの経済成長率について、2014年は-0.5%～-1%、2015年は財政方針が未知数であるとして「停滞」と予測。また来年初より施行予定の所得税減税については右の裨益の対象が中高所得層であることから消費刺激効果は限定的と評価。

●14日、クロアチア統計局は、10月の消費者物価指数を発表。前年比0.4%上昇と9ヵ月振りにプラスに転じた。

●17日、欧州統計局は、EU加盟28カ国における研究開発費対GDP比を発表。右の2013年の28カ国平均値は2.02%(2004年1.76%)。クロアチアはルーマニア(2013年0.39%)、キプロス(同0.48%)、ラトビア(同0.6%)、ブルガリア(同0.65%)、ギリシャ(同0.78%)に次ぐ低い値(同0.81%、2004年1.03%)にとどまった。

●18日、マラス中小企業大臣は(6大銀行チーフエコノミストの2015年の経済成長予測(-0.2%)に対するコメントとして)、2015年の経済成長はプラスに転ずるとした上で、クロアチア銀行協会(HUB)に対し融資態度がリスク回避的であるとし、中小企業向け融資を拡大するよう要請。

●22日、クロアチア商工会議所および当地フィンランド大使館の共催で、「クロアチア・フィンランド・ビジネスフォーラム」を開催。

●24－26日、マラス中小企業相が日本訪問。経済産業省、中小企業庁関係者と意見交換。

●26日、バウク行政管理相は、非主要行政部門のアウトソーシングに反対する住民投票の請願署名について、投票実施に必要な数を10%上回る署名数が確認された旨発言。

●28日、クロアチア統計局は、7－9月期のGDP成長率速報を公表。前年同期比0.5%減となり、12四半期連続のマイナス成長となった。需要項目のうち成長率に対し最もプラスに寄与したのはサービス輸出であり、最もマイナスに寄与したのは財の輸入であった。

主要経済指標

(2014年1～9月期, 対前年同期比(除く失業率), 政府統計局発表)

輸出総額 (1～9月)	輸入総額 (1～9月)	貿易赤字 (1～9月)	工業生産高 (10月)	インフレ率 (10月)	失業率(登録制) (10月)
+9.6% (579億クーナ, 75.9億ユーロ)	+4.5% (989億クーナ, 129.8億ユーロ)	-2.0% (410億クーナ, 53.8億ユーロ)	+2.7% (9月:3.8%)	+0.4% (9月:-0.2%)	18.7% (9月:17.7%)

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものです。記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。